





Annual Report 2014







社長インタビュー

構造改革を完逐し、 成長分野、中核事業に経営資本を集中させ、 さらなる成長を目指します。

代表取締役社長 上釜 健宏

- Q1 当期の業績を振り返ってください。| P01
- Q2 今後の成長戦略について 教えてください。| P02
- Q3 事業におけるTDKの 最大の強みはどこにありますか。| P03
- Q4 CSRに対するTDKの 姿勢・考え方を教えてください。| P04
- Q5 2015年3月期の見通しについて お聞かせください。| P05



社長インタビュー

本格的な業績拡大に向け グループの総力を結集して さらなる成長を追求します。

代表取締役社長 上釜 健宏





2013/3

2014/3

Q1. 当期の業績を振り返ってください。

構造改革の成果や円安効果を受けて、 期初予想を大きく上回る増収増益を記録しました。

2014年3月期のTDKの業績は、国内外各国の経済成長やエレクトロニクス市場の回復、またここ数年にわたる構造改革の成果などによって期初の業績予想を大きく上回りました。連結売上高は前期比16.9%増の9,845億円と過去最高を記録し、営業利益も同66.0%増の366億円に達しました。

セグメント別では、前期赤字だった受動部品事業の黒字化が業績改善に大きく寄与しました。 構造改革による事業体質の改善に加え、自動車市場、産業機器市場及びスマートフォンやタブ レット端末などの通信機器並びに情報家電市場向けが好調に推移しました。これらにより受動部 品事業の売上高は前期比24.3%増の4,717億円、営業利益も三期ぶりの黒字に転じ、前期のマイナス111億円から154億円へと大幅な増益を達成しました。

一方、磁気応用製品事業は、売上高が前期比7.8%増の3,643億円、営業利益が同24.3%減の281億円にとどまりました。これは記録デバイス事業が、タイ洪水による特需があった前期に比べてとくに数量ベースで大幅減となったこと、さらにマグネット事業や記録デバイス事業(ハードディスクドライブ(HDD)サスペンション事業)において、前期はタイ洪水被害の保険金58億円を計上していたなどの事情によるものです。

フィルム応用製品事業は、スマートフォン、タブレット端末を中心とする通信機器・情報家電市場でのエナジーデバイス(二次電池)の販売が好調に推移したほか、新規顧客の獲得などもあって、売上高は前期比25.7%増の1,293億円、営業利益も同4.7%増の134億円となりました。

当期における平均為替レートは、対ドルが期初計画より20.8%円安の100円26銭、対ユーロが同じく25.6%円安の134円42銭となりました。海外売上高が90%以上を占める当社のグローバル事業体制下において、この為替変動による効果は大きく、売上高約1,475億円、営業利益約243億円の増収増益に結びついています。



2014/3

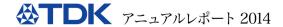
2013/3



12

2013/3

2014/3





02. 今後の成長戦略について教えてください。

大きな投資をともなう事業構造改革を完遂しました。 今後は各セグメントをバランスよく成長させていく ポートフォリオ経営を推進していきます。

TDKは、この2年間はコンデンサをはじめとする受動部品事業の改革を進める一方、フィルム 応用製品事業の拡大を追求してまいりました。その結果、2014年3月期は受動部品事業が黒字化 を果たし、フィルム応用製品事業も増収増益を続けています。さらに、データテープ事業・ブルーレイ事業の撤退が完了するなど、大きな投資をともなう事業構造改革は2014年3月期をもって完遂いたしました。

こうした改革の結果、利益構造の観点からも、安定的な高収益事業であるHDD用磁気ヘッドを中心とする磁気応用製品事業に加え、受動部品事業、フィルム応用製品事業の3セグメントによるバランスの取れた事業ポートフォリオを描ける体制が整いました。2015年3月期からは、3つのセグメントのバランスを図りながら、TDKの強みを活かしてそれぞれの事業のさらなる成長を追求していきます。

そのための施策の一つとして、2014年4月に営業体制を刷新し、今後高い成長が見込まれる「自動車」「ICT」「産業機器・エネルギー」という3つの重点戦略市場別の営業組織に再編しました。さらに、各セグメントの中でも、「インダクティブデバイス」「高周波部品」「圧電材料部品」「HDD用磁気ヘッド」「二次電池」の5つを重点事業に位置づけ、これらに経営資源を集中的に配分していきます。

続いて市場分野別の戦略ですが、まず「自動車」分野については、コンデンサやインダクティブデバイスなど、既に高いシェアを持っている自動車用パワートレイン系の電子部品をはじめ、新材料を用いた高効率の電源、DC-DCコンバータ、バッテリチャージャなどの拡販を強化し、総売上に占める比率を2014年3月期の17%から2015年3月期以降早期に20%を達成することを目標に拡大させていきます。また、中長期的な取り組みとしては、磁気ヘッド技術を応用して開発したTMRセンサを、車載用の角度センサなどの用途で拡販していくことや、EV(電気自動車)用電池の拡販を考えています。EV用電池は既に一部量産が始まっており、今後の成長が期待できます。さらに、磁石事業についても、新材料・新工法の開発などによって巻き返しを図りたいと考えています。自動車分野における電子部品の需要は、今後も電装化の進展やHEV(ハイブリッドカー)やEVなどの環境自動車の拡大により、確実に増加すると見られております。この自動車分野において当社は着実な成長を実現していきます。

次に「ICT」分野では、引き続きスマートフォンやタブレット端末などの成長市場に注力します。その中でも、特にカメラモジュール用のVCM(Voice Coil Motor / 高速オートフォーカス)や OIS(Optical Image Stabilizer / 手ぶれ補正) 用アクチュエータ、リチウムポリマー電池といった付加価値製品を拡販していきます。

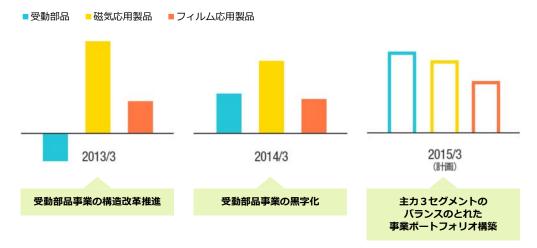
SAW(Surface Acoustic Wave)フィルタなどの高周波部品については、半導体メーカーとの ICコラボレーション戦略を基軸にして有力セットメーカーのリファレンス獲得に取り組んでいます。現在、TD-LTE方式4Gサービスの展開が進みつつある中国をはじめ、米国や韓国などの有力 市場において、ダイバーシティモジュール、TC-SAW(Temperature Compensated SAW)フィルタ、BAW(Bulk Acoustic Wave)フィルタなどの拡販に力を注ぎます。さらに受注獲得と同時に、ウエハサイズの拡大やさらなる小型パッケージ製品の投入などによる生産性・収益性の向上にも力を注ぎ、市場競争力の強化を図ります。

「産業機器・エネルギー」分野では、再生可能エネルギー発電設備などのエネルギーインフラ 向けに、インバータ用部品、DC-DCコンバータ、定置型二次電池(ESS=Energy Storage System)、コンデンサ、ラインノイズフィルタ、リアクタ、電流センサといったパワーデバイス製品の拡販に注力していきます。



公丁DK アニュアルレポート 2014

3セグメントの営業利益推移





Q3. 事業におけるTDKの最大の強みはどこにありますか。

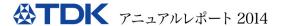
コアコピタンスである磁性分野などの材料技術やナノレベルの精密なモノづくりの力を駆使して次世代の高付加価値製品を提供していきます。

TDKグループの最大の強みは「独創性」 - すなわちオリジナリティのある技術を駆使して他社にない製品を創り出せることにあります。今後もコアコピタンスである磁性分野などの「材料技術」やナノレベルの「精密加工技術」を駆使して、新しい価値ある製品を市場に提供し続けていきます。

なかでも磁気ヘッド分野で培ってきた薄膜プロセス技術については、これを他の電子部品の生産に応用することで大きなブレイクスルーを起こせると期待しています。たとえば、高周波部品の分野では、時計型やメガネ型などのウェアラブル端末に対応していくために、今後より一層の小型化・薄型化が要求されるのは間違いありません。そこでTDKでは、磁気ヘッドの薄膜プロセス技術を駆使して、次世代の薄型のSAWフィルタ、BAWフィルタなどの開発を進めていく計画です。すでに、ドイツのエプコス社の技術者と当社の磁気ヘッドの技術者が協力して高周波部品の生産工程の改善に取り組み、成果が現れ始めています。磁気ヘッドの生産設備は償却期間が短いため、償却済の既存設備を高周波部品の生産拠点に転用することによって、品質はもちろんコスト面でも大きな競争力を発揮できるはずです。

また、ウェアラブル端末の用途としては、血圧・体温などを測定して健康管理に役立てるといったヘルスケア領域での活用も期待されています。これらヘルスケア用途向けの各種センサやパワーマネジメント系の部品についても、半導体メーカーとのコラボレーションなどを通じて、小型・薄型の高付加価値製品を開発していきたいと考えています。





Q4. CSRに対するTDKの姿勢・考え方を教えてください。



あらゆるステークホルダーに信頼される企業をめざし 省エネルギーを実現する製品・技術の提供など 事業を通じた社会貢献に力を注ぎます。

TDKグループのCSRに関する基本姿勢は、「創造によって文化、産業に貢献する」という社是に凝縮されています。こうした基本姿勢の実践に向けて一人ひとりの社員が日々努力を積み重ねていくことによって、TDKという会社がすべてのステークホルダーから信頼される存在になるのです。

TDKが事業を通じて社会に貢献できる領域は多岐にわたりますが、なかでも大きな可能性を秘めているのが省エネルギーを実現する製品を通じた貢献です。当社は、スマートフォンやPCといった身近なコンシューマ機器から、車載機器、さらには風力発電・太陽光発電などのエネルギーインフラ設備まで、幅広い電源関連の製品を供給していますが、現在の電源製品のエネルギーが率は最高でも90%程度であり、約10%のエネルギーを口入している計算になります。それだけに、この効率を1%向上させるだけでも、社会全体では相当量の省エネ効果が得られるわけです。電源の効率改善については、まだまだイノベーションの余地があると考えています。そのためには、設計や生産プロセスの改善はもちろん、材料から見直していく必要がありますが、TDKには薄膜積層や巻線などのプロセス技術、また磁性体や誘電体などの材料技術に関する豊富な蓄積があります。この強みを活かし、今後も新材料の開発や生産技術の革新などによって、電源の高効率化を追求していきます。

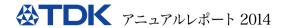
わが国では、東日本大震災後、社会レベルでの省エネルギー推進が重要課題となっています。 TDKでは、電源の効率化によって省エネに貢献していくのはもちろん、洋上風力発電などの再生 可能エネルギー関連のプロジェクトに参加し、風力発電に必要なマグネットや蓄電関連の製品を 開発するなど、持続可能な社会の実現に向けた新たなエネルギーインフラの構築にも積極的に貢献しています。

一方、HEVやEVなどを含めた自動車の電装化、情報化が進んでいる自動車分野においても、TDKは、高効率の電源システムや各種センサ類など、より安全で環境にやさしい自動車づくりに役立つ部品を提供しています。

さらに、こうした省エネ分野以外でも、たとえば医療や介護の分野において、診断機器やウェアラブル機器向けのセンサ類や電子部品などを提供していくことにより、人々の生活の質の向上に貢献していきたいと考えています。

もちろん、すべてのステークホルダーに信頼される存在となるためには、地球環境や人権などに十分配慮した経営を行うことが不可欠です。当社では、2011年に日本の電子業界で初めてカーボンニュートラルの目標を掲げるなど、徹底した環境経営に取り組んできました。また、海外売上高の比率が90%を超えるグローバルカンパニーとして、世界各地域で国籍や性別を超えた人材の登用・育成を積極的に進めるなど、ダイバーシティの推進にも力を注いでいます。





Q5. 2015年3月期の見通しについてお聞かせください。



ICT分野での高周波部品の販売増や リチウムポリマー電池の市場成長などにより 売上高1兆500億円を見込んでいます。

2015年3月期は、為替レート1ドル100円、1ユーロ135円を想定して試算しています。

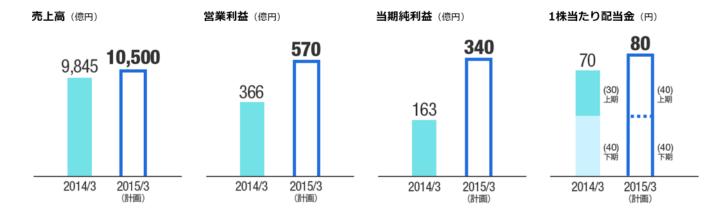
受動部品事業では、自動車向け部品の販売が引き続き拡大するほか、高周波部品を中心にICT 向けの販売が伸張すると予想されることから、当期比10%~15%の成長を見込んでおり、利益面でも大幅な増益を見込んでいます。一方、磁気応用製品事業は、産業機器市場における設備投資の回復から電源事業の拡大を見込んでいるものの、売上構成比率の高いHDDへッド事業につきましては、PC向けHDD需要の減少が続く中、データセンター向けのハイエンド製品市場の急激な拡大が見込めないため、セグメント全体としては当期比-5~0%の横ばいを見込んでいます。しかし、利益面では、前期課題であったマグネット事業や電源事業の収益改善を中心に、前期とほぼ同水準の営業利益を確保できる見込みです。フィルム応用製品事業は、リチウムポリマー電池の薄型化、大容量化などによる部品市場の拡大が予想されることから、当期比20%~25%の大幅な成長を見込んでおり、増益を見込んでいます。



これらにより2015年3月期の連結売上高は、前期比6.7%増の1兆500億円、営業利益は同55.7%増の570億円、営業利益率5.4%を見込んでいます。配当金は上期下期とも一株当たり40円、年間80円を予定しています。売上高は、創業以来初の1兆円超えとなります。

この業績予測のなかでも、とくに5.4%という営業利益率は、まだまだ満足できる水準には達していません。そこで当社では、今後も引き続き各事業の収益構造の見直しを行い、改善余地のある事業については徹底した改革を実施していきます。さらに、成長市場での確実な拡販をめざして、重点戦略市場別に再編した新しい営業体制のもと、多彩なソリューション提案を推進していきます。

TDKでは、2015年3月期を来期以降の本格的な業績拡大に向けた最後の助走期間として位置づけており、今後もグループの総力を結集してさらなる成長を追求してまいります。





特集 ナノテク&薄膜ソリューション

磁気ヘッドに代表される TDKのナノテクと薄膜技術が創造する 新たなイノベーション。

TDKが世界に誇るナノテクと薄膜技術。 その最先端技術が、さまざまなコアテクノロジーと融合することで、 新たな技術が生まれ、私たちの暮らしに、夢のソリューションを提供します。



Smartphone

Health Devices

公丁DK アニュアルレポート 2014



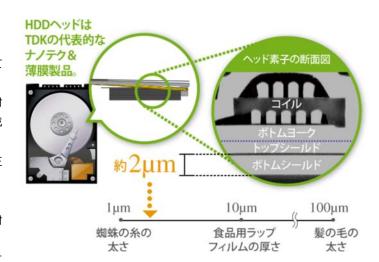
TDKのナノテク・薄膜技術は、どこが凄いの?



TDKのHDD磁気ヘッドで培ったナノテク・薄膜技術は、 世界トップの技術です。

HDD磁気ヘッド分野で、これまで世界をリードしてきたTDK。現在、業界再編により、磁気ヘッド専業メーカーはTDK 1 社となったことからも、その技術の優位性は証明されています。この磁気ヘッドには、わずか 2 µmのナノテク&薄膜技術が活躍。この技術は、半導体の製造プロセスのように、材料表面に、ミクロン〜サブミクロン単位の薄い膜を何層も形成する技術です。TDKはこれまで70億本もの高品質な薄膜ヘッドを世界に提供してきました。その精緻な薄膜技術は、正真正銘、世界トップレベルです。

TDKは、このHDD磁気ヘッドで培ったナノテク&薄膜技術を、コンデンサ材料や金属磁性材料、高周波部品などの電子材料にも応用。その強化の一環として、2013年11月には、薄膜デバイスセンターを設立し、新たなイノベーションに挑戦していきます。





TDKのナノテク&薄膜技術の応用分野は?



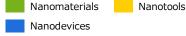
ウェアラブル端末などのICT機器をはじめ、エコカー、 エネルギー、ヘルスケアなどの分野で期待されています。

2020年に開催される東京オリンピックは、ウェアラブルオリンピックになると言われているほどで、今後、ウェアラブルは急速に進化すると予測されています。

TDKのナノテク&薄膜ソリューションは、こうしたウェアラブル端末などのICT*機器をはじめ、エコカー、エネルギー、ヘルスケアなどの重点市場に積極的に展開していきます。

* ICT: Information and Communication Technology、情報通信技術

ナノテク製品の世界市場規模予測





独自の素材技術をもつTDKの強みをナノテク&薄膜製品で発揮!



出典: BCC Research「Nanotechnology: A Realistic Market Assessment より innovation

高周波部品

マルチバンド、LTEの拡大とともに、 小型・低背型の高周波部品・ モジュールの需要が急増しています。

スマートフォンなどの送受信回路には多数の高周波部品が使われます。BAWフィルタは圧電材料の薄膜を利用した高周波フィルタで、中国を中心に急速な広がりを見せるTD-LTE*通信方式などの高周波数帯域ですぐれた特性を示します。

軽量化がますます求められるなか、4G世代に対応した高 品質な高周波部品が求められています。

*TD-LTE: Time Division Long Term Evolution





出典: Navian社資料より



BAWフィルタ

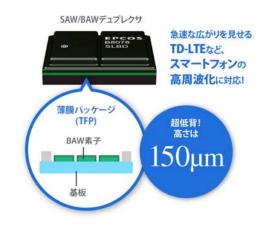
革新的な薄膜パッケージ(TFP)技術により、 超小型・超低背の高周波部品・モジュールを実現。

TDKでは薄膜技術やMEMS技術などを駆使した革新的な薄膜パッケージング (TFP: Thin Film Packaging)技術を確立し、本格的な4G時代のモバイル端末に 向けた先進の高周波部品・モジュールを提供しています。特に、今後の成長が期待されているBAWフィルタや、SAWフィルタと組み合わせた超低背の SAW/BAWデュプレクサ、高周波モジュールなども提供しています。

SAWフィルタとBAWフィルタの適用周波数帯域



出典: TDK資料より



2

インダクティブデバイス

モバイル機器の小型・薄型化・ 多機能化、そして電力消費量の軽減が 求められています。

スマートフォン、タブレット端末、ウルトラブックなどの モバイル端末市場は、今後も大きな成長が期待されていま す。

一方、技術のブレイクスルーも求められており、より小型・薄型化・多機能化、そして何よりも、電力消費量の軽減によるバッテリの持ち時間の長さが求められています。

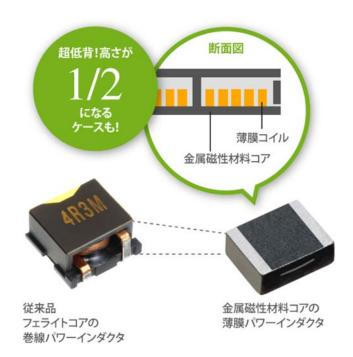


そこで TDKは・・・

薄膜パワーインダクタ

高精度の薄膜コイルパターニングにより損失を低減。 モバイル機器用の電源の省スペース化・省電力化を推進します。

スマートフォンをはじめとするモバイル機器には、複数の小型電源が搭載されていますが、その重要部品となるのが「パワーインダクタ」です。TDKの薄膜パワーインダクタは、コアに金属磁性材料を採用し、ウエハプロセスや先進のめっき技術などにより、高精度の薄膜コイルを形成させた新製品です。大電流対応で低損失、しかも小型・低背タイプなので、モバイル端末の電源モジュールなどにも最適です。



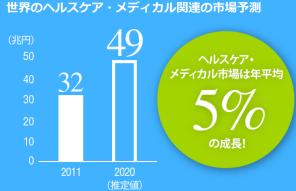
innovatio

IC内蔵基板

ウェアラブル端末、ヘルスケア機器をはじめ、 これからの回路基板にはさらなる多機能化と 省スペース化が求められています。



さまざまな機器や端末がインターネットでつながる「モノのインターネット(IoT: Internet of Things)」が、最近注目されています。たとえば、スマートフォンとヘルスケア機器を無線電波で連携させ、遠隔地にいる家族や病院の医師にデータを送付したり、スマートグラスをかけるだけで、地図情報と連動し、道案内がされるなどがあります。一方、ウェアラブル端末に代表されるように、回路基板のさらなる小型化、省スペース化は、喫緊の課題です。



そこで TDKは…

SESUB (Semiconductor Embedded in SUBstrate)

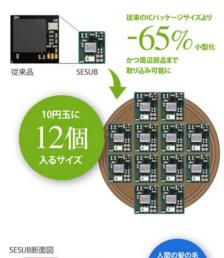
ICチップを基板内に埋め込む先進ソリューション。 高機能・高集積度の小型モジュールを実現します。

数10μmにまで薄く加工したICチップを、基板内に埋め込むことで、4層基板で基板の厚み300μmまで薄型化。すぐれたノイズ抑制効果や放熱性とともに、デザイン自由度の向上により、高機能・高特性の小型モジュールが実現します。

このSESUBは、スマートフォンの電源管理モジュール(PMU: Power Management Unit)をはじめ、スマートウォッチ、スマートグラスなどのウェアラブル端末、血中酸素濃度計などのヘルスケア機器、またリストバンド型活動量計などのフィットネス機器へも展開していきます。



Bluetoothモジュール
小型、薄型、低消費電力。
低ノイズのDC-DCコンバータや
通信機能を合わせ持つ
Bluetoothモジュールも開発済み!



innovation
4

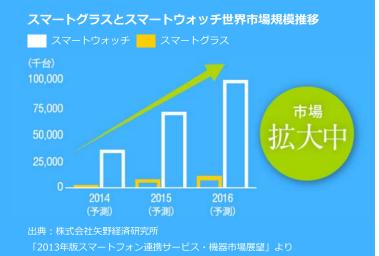
基板内蔵部品

高密度実装の限界をブレイクスルーするために 電子部品を基板内部に埋め込む技術が 注目されています。



スマートウォッチ、スマートグラス、アクセサリタイプの 通信端末など、さまざまなウェアラブル端末の登場によ り、これまでの電子部品の小型化・薄型化のやり方では、 それ以上は、小さくするのが困難な限界にまで来ていま す。

そこで、これまでのように、基板の上に電子部品を実装するのではなく、基板内部に電子部品を埋め込む技術が脚光 を浴びています。



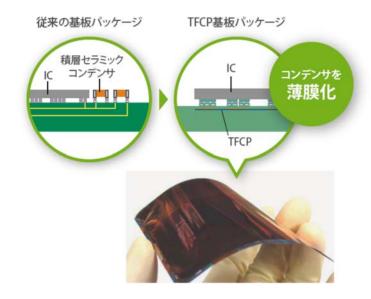
そこで TDKは…

基板内蔵用薄膜キャパシタ(TFCP)

常識を破る新タイプのコンデンサを開発! 超薄型で、しかもフレキシブル。

用し、ニッケル箔に誘電体の薄膜を蒸着させた新タイプのコンデンサ(TFCP: Thin Film Capacitor)を開発しました。
ICパッケージの基板内部に埋め込むことができる超薄型で、実装面積の大幅削減をもたらします。しかも、フレキシブルで任意の形状が可能なため、次世代ICT機器として注目されるウェアラブル端末向けの小型モジュールなど、新たな用途が期待できます。

TDKは、HDDヘッド製造などで使われる先進のスパッタ法を応



innovatio

センサ

安心・安全・快適で、環境にもやさしい エコカーの実現に、車載センサの役割が ますます重要になっています。

自動車にはさまざまなセンサが取り付けられています。たとえば、エンジンやモータなどを、車体の状態に応じて高度に制御することで、安全・快適な省エネ走行が実現します。そのためには、より精度の高いセンサ技術が求められています。







そこで TDKは・・・

車載用センサ

磁気ヘッドのTMR素子を利用した高精度センサを提供。 エコカーのさらなる燃費向上に貢献します。

TDKでは、磁気ヘッドのTMR素子を利用したTMR角度センサほか、電流センサや温度センサなど、車載用途に最適化した各種センサを提供しています。 半導体製造技術と同様の高度な薄膜プロセス技術で製造されるTDKのTMR角度センサは、エンジンやモータなどに取り付けたギアの回転速度や位置を検出する高精度なギアトゥースセンサや電動パワーステアリング(EPS:

Electronic Power Steering)モータ用角度センサ、ハンドルの角度を正確に検出する角度センサなどで活躍しています。

TDKは、エコカーのさらなる燃費の向上とともに、安全・快適なドライブもサポートします。





財務報告

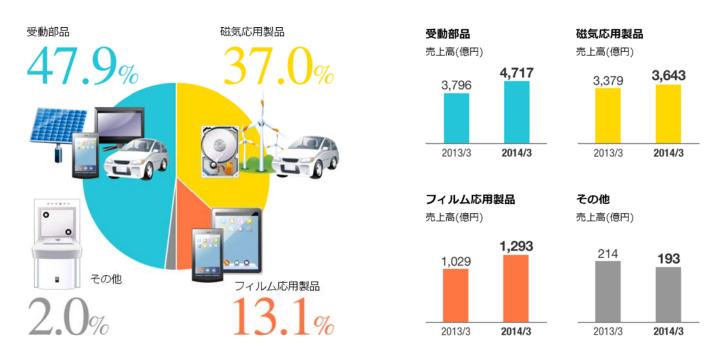
当社の連結業績に影響を与えるエレクトロニクス市場を概観しますと、需要が拡大しているスマートフォンの生産は、大手メーカーより新型端末が発売されたこと等に牽引され、前期の生産水準を大幅に上回りました。需要が拡大しているタブレット端末の生産も、前期の水準を大幅に上回りました。自動車市場全体の生産も、米国での堅調な販売に支えられ、前期に比べ増加しました。また、産業機器市場も、半導体製造装置やFA機器等の設備投資が回復し前期より市場環境が改善してきました。

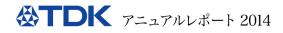
一方、パソコンの生産は、日本国内においては消費税増税前の駆け込み需要が若干の押し上げ効果として見られましたが、全体としてはタブレット端末市場が拡大していることが影響し、前期の水準を下回りました。ハードディスクドライブ(HDD)の生産も、次世代ゲーム機向けの需要やWindows XP サポート終了に伴うパソコン向けの需要増加が見られたものの、タイの大規模洪水の影響で一時的な特需があった前期より減少しました。このような経営環境の中、当社グループの連結業績は、売上高 9,845 億 25 百万円(前期 8,418 億 47 百万円、前期比 16.9%増)、営業利益 366億16 百万円(前期 220億 54 百万円、前期比 66.0%増)となりました。



(注)2014年3月期において、非継続となったデータテープ事業及びブルーレイ事業に係る数値を除外しております。これに伴い、2012年及び2013年3月期の数値については2014 年3月期の表示にあわせて組替えております。

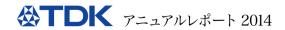
セグメント情報





長期財務ハイライト

(3月31日に終了した1年間及び3月31日現在) 単位:百万										単位:百万円	
	2004/3	2005/3	2006/3	2007/3	2008/3	2009/3	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3
売上高	655,792	657,853	795,180	862,025	866,285	727,400	805,194	871,943	802,534	841,847	984,525
(海外売上高)	487,169	473,828	621,522	690,673	714,172	610,944	703,190	763,046	691,962	736,015	890,520
売上原価	476,407	484,323	585,780	622,819	635,529	605,943	614,341	654,180	624,271	668,258	763,572
販売費及び一般管理費	122,875	119,886	142,052	159,106	158,921	159,878	158,976	153,442	157,886	151,535	184,337
厚生年金基金の 代行部分返上:											
累積給付債務と 責任準備金との差額		(33,533)									
清算損		27,347									
記録メディア販売事業譲渡益					(15,340)						
リストラクチュアリング費用	_	_	6,825	510	_	15,884	4,922	-	_	_	_
拠点再編に係る固定資産関連費用等									6,570	_	_
拠点再編に係る固定資産売却益(△益)									(6,732)	_	_
営業利益(損失)	56,510	59,830	60,523	79,590	87,175	(54,305)	26,955	64,321	20,539	22,054	36,616
税引前当期純利益(損失)				88,665	91,505	(81,630)					
継続事業税引前 当期純利益(損失)	55,847	60,728	66,103				23,088	60,620	14,668	19,765	39,772
法人税等	12,133	23,284	21,057	16,985	19,948	(17,041)	9,401	15,105	11,970	14,616	17,936
継続事業当期純利益(損失)	43,355	36,965	44,411				13,687	45,515	2,698	5,149	21,836
非継続事業当期純損失 (利益)	1,254	3,665	310				(805)	(511)	(4,399)	(619)	(3,602)
当社株主に帰属する 当期純利益(損失)	42,101	33,300	44,101	70,125	71,461	(63,160)	13,520	45,264	(2,454)	1,195	16,288



	2004/3	2005/3	2006/3	2007/3	2008/3	2009/3	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3
一株当たり指標(円):											
当社株主に帰属する 当期純利益(損失)-基本	317.80	251.71	333.50	529.88	551.72	(489.71)	104.82	350.90	(19.06)	9.50	129.47
当社株主に帰属する 当期純利益(損失) -希薄化後	317.69	251.56	333.20	529.29	551.19	(489.71)	104.74	350.57	(21.42)	5.36	120.97
キャッシュ・フロー	700.46	650.47	775.50	1,022.45	1,101.11	204.75	750.77	948.98	589.91	623.37	787.06
純資産	4,352	4,832	5,311	5,759	5,557	4,297	4,215	4,142	3,957	4,460	5,049
一株当たり配当金(円)	55.00	70.00	90.00	110.00	130.00	130.00	60.00	80.00	80.00	70.00	70.00
配当性向(%)	17.3	27.8	27.0	20.8	23.4	-	57.2	22.8	-	736.8	54.1
総資産	770,319	808,001	923,503	989,304	935,533	1,101,036	1,091,458	1,060,853	1,072,829	1,169,642	1,239,589
株主資本	576,219	639,067	702,419	762,712	716,577	554,218	543,756	534,273	498,159	561,169	635,327
運転資本	360,555	379,746	397,131	449,830	300,859	281,536	286,370	199,186	219,918	232,693	279,504
固定資産の取得	44,471	61,005	73,911	70,440	84,312	98,425	64,370	78,638	99,653	85,606	68,606
減価償却費	50,726	52,806	58,540	65,337	71,297	89,567	83,392	77,264	78,492	77,369	82,893
研究開発費	32,948	36,348	45,528	50,058	57,387	57,645	53,874	52,608	51,968	53,520	63,385
海外生産比率(%)	58.6	59.0	61.7	62.2	70.1	74.0	80.5	83.7	85.8	82.5	86.7
従業員数 (人)	36,804	37,115	53,923	51,614	60,212	66,429	80,590	87,809	79,175	79,863	83,581

(注)2014年3月期において、非継続となったデータテープ事業及びブルーレイ事業に係る数値を除外しております。これに伴い、2012年及び2013年3月期の数値については2014年3月期の表示にあわせて組替えております。

役員紹介

取締役



監査役



執行役員



上**釜 健宏** (兼)加湿器対策本部長



専務執行役員 **小林 敦夫**

事業担当 (アプライドフィルム、フラッシュメモリ応用デバイス、電波エンジニアリング) 磁性製品ビジネスグループゼネラル・マネージャー(兼)パワーシステムズビジネスグループゼネラル・



専務執行役員 **植村 博之**

TDK-EPC プレジデント&CEO (兼) セラミックコンデン サビジネスグループ ゼネラルマネージャー



常務執行役員 **逢坂 清治** TDK-EPC SEVP[※]&COO



マネージャー

常務執行役員 **吉原 信也**

生産本部長 (兼)生産本部新事業推進室長 (兼)加湿器対策本部副本部長



常務執行役員 米山 淳二

機構改革、人事教育、総務、法 務、CSR推進担当



常務執行役員 松岡 薫

技術本部長 (兼)技術本部 先端技術開発センター長



常務執行役員 **齋藤 昇**

電子部品営業本部長 (兼)電子部品営業本部 ICTグループ ゼネラルマネージャー



常務執行役員 Robin Zeng (ロビン・ツェン) エナジーデバイス ビジネスグループ ゼネラルマネージャー



執行役員 **桃塚 高和** 経理財務 業務改革プロジェクト担当



永田 充電子部品営業本部 副本部長(兼)電子部品営業本部自動車グループ

ゼネラルマネージャー



執行役員 **Joachim Zichlarz** (ヨアヒム・ツィヒラル ツ)

TDK-EPC
SEVP^{*}&CFO



執行役員
Joachim Thiele
(ヨアヒム・ティーレ)
電子部品営業本部 副本部長
(兼)電子部品営業本部
産機・エネルギーグループ
ゼネラルマネージャー



執行役員 **今本 敬一** 磁性製品ビジネスグループ デビュティゼネラルマネー

****SEVP**: Senior Executive Vice President



執行役員 **石黒 成直** ヘッドビジネスグループ ゼネラルマネージャー



執行役員 末木 悟 生産本部 品質保証グルーブ長

2014年6月27日現在



将来に関する記述についての注意事項

この資料には、当社または当社グループ(以下、TDKグループといいます。)に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価などといった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営業績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこのウェブサイトを公開した後は、法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更などがあります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。